

令和4年2月25日(金)
玉幡小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日 ※今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、紙上総会とした。

- 1 資料発送 令和4年2月4日(金)
- 2 評価者 学校評議員 鈴木澄雄 志村俊光 村松まゆみ 新海文裕(P T A副会長)
P T A代表 大柴岳人(会長) 浦野智美・岡浩之・星愛(以上副会長)
- 3 経過
①学校より、教職員の自己評価・児童アンケート・保護者アンケートの結果と達成状況、今後の改善策についての資料発送
②各評価者の方々は、意見・要望を紙面に於て回答(〆切2月16日)
③自己評価書の改善策に集約

〈学校関係者評価書〉

I 全体評価

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 全体評価について | 妥当である(8) |
| 2 項目ごとの評価結果 | |
| Ⅰ 学校教育目標に関して・学校経営について | 妥当である(8) |
| Ⅱ 学校運営について | 妥当である(8) |
| Ⅲ 学習指導について | 妥当である(7) 改善が必要(1) |
| Ⅳ 生徒指導について | 妥当である(7) 改善が必要(1) |
| Ⅴ 地域との連携について | 妥当である(7) 改善が必要(1) |
| Ⅵ 学校の特色に関して | 妥当である(8) |
| Ⅶ 創甲斐教育について | |
| 3 まとめと課題について | 妥当である(8) |

II 特徴

☆学校教育目標に関して・学校経営について

- ・全体的に、肯定的なご意見が多い。
- ・「学校が楽しくない」と回答した少数の児童に目を向けていく必要がある。

☆学校運営について

- ・教職員の多忙化が心配である。業務改善・多忙化改善を進めていってほしい。そして児童に向き合える時間を確保できるようにして欲しいという意見が多数出された。

☆学習指導について

- ・「学びの意欲の向上」に向けて、取り組んでいることが評価できる。
- ・「わからないことがあったら先生に聞いている」についての肯定率低下に対しての具体的な取り組みが必要であるとの意見が複数出された。

☆生徒指導について

- ・全体的に肯定的な意見が多い。
- ・不登校やいじめのない学校生活の継続のための取組をさらに望む声が聞かれた。

☆地域との連携について

- ・コロナ禍における学校の取組について、評価する意見が多かった。
- ・地域との連携については、現在の状況の中でなかなか進んでいない。

☆学校の特色に関して

- ・あいさつ運動やノーチャイムなどの取組を評価する意見が多い。
- ・さらに「玉小の特色とは」について、広く保護者や地域の人々にも知らせていただきたい。

☆創甲斐教育について

- ・コロナ禍における子どもたちの体力低下が心配である。
- ・国語力の向上・自己表現力の向上・体力の向上、どれも将来的に必要である。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・学習指導・生活指導において、教師が児童の気持ちに寄り添い、親身になって話を聞いたり具体的な行動を考えさせたりしていくことが必要である。
- ・「学校が楽しくない」「わからないところを先生に聞いていない」などについては、いじめアンケートの活用や学習状況の把握、保護者との情報共有等を日常的に行い、学年内で歩調を合わせて取り組んでほしい。
- ・教師が児童と向き合える時間を今以上に確保していくための業務改善・多忙化改善には、引き続き取り組んでいく必要がある。業務のICT化、学年間の情報共有、会議や行事の精選や効率化、若手教員への支援等、進めてきているところではあるが、今後も検討していく必要がある。
- ・コロナ禍で、学年部会等が開催できず、学校や学年の考えをお伺いする術が、おたよりやHP等に限られてしまうことは否めない。これまでの方法に加え、学校の子どもたちの様子を、一人1台端末を活用して動画等で配信したりする取組も行うことで、保護者との連携をさらに深めていくことが必要である。

※特記事項

特になし

記載責任者（玉幡小学校 学校関係者評価委員） 大柴 岳人 印